

入会促進

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
副会長 橋本里見



日本診療放射線技師会（以下、日放技）から、最新の全国および各都道府県別の診療放射線技師およびエックス線技師数と組織率などの統計データが届いた。

データを見ると、平成24年11月現在の全国の診療放射線技師およびエックス線技師総数は49106人。日放技会員数は28817人で組織率は57%となっている。7年前の平成18年度末は、技師総数43162人で会員数32134人の組織率68%だったので、日放技の会員数は1割程度の減少となっている。この組織率低下を防ぎ、今後の会員数増加を目指す各都道府県技師会との連携を密にした入会促進事業の計画案が具体化している。

一方、埼玉県診療放射線技師会（以下、本会）では、平成24年11月現在、県内診療放射線技師およびエックス線技師総数は2203人で、日放技会員数は1121人と組織率は50%となっている。7年前の平成18年度末では、県内技師総数1907人で会員数1190人と組織率62%だったので、本会でも日放技と同様な傾向にある。組織率50%はとて深刻で、この数字には正直ショックを受けた。正確には日放技に所属せず本会だけに所属している会員がおり、それを含めると組織率は53%となるが、それほど変化があるとはいえない。

この数字を本会でも深刻に受け止めている。組織率低下は今に始まったことではなく、10年程前からこの傾向は見られた。本会でも、対策としてフレッシュセミナーの内容充実化、セミナー講習会の参加費値下げなど会員サービスにつながる事業を、十分とはいえないが実施してきた。しかし、効果が少なかったと認識しなくてはならない状況となり、反省しているところである。

他の都道府県では、最低の組織率は31%、最高は86%であり、人口、そして技師数の多い大都市圏で組織率は低下している。技師数が多いことで広報が行き届いていないということだろう

か。いや、要因は様々であるため、良い対策が講じられてこなかったのだと思う。

前述したが、今後日放技の入会促進事業に、本会も連携して対策を講じていく。日放技の対策概要は、5年計画で会員数35000人を目標として新入会促進だけではなく、退会の阻止と再入会の促進を図る。各都道府県技師会との連携はもとより、技師養成機関との連携も強化する予定だ。本会でも埼玉県内の技師養成校である日本医療科学大学に赴き、打ち合わせとプレゼンテーションを2月中に行うことが決定している。まずは技師養成校の教職員に協力を求め、新卒の学生に職能団体の事業を理解していただくことからスタートする。

他、具体的案として、入会促進担当者を各都道府県に任命し、アンケート調査を行う。フレッシュセミナーの効果検証、技師長クラスのセミナー開催などが出ている。なかでも技師長クラスのセミナーは注目したい。職能団体の活動を養成校新卒者に理解していただくのは難しいと思う。一度のフレッシュセミナーだけで技師会の事業を理解してもらうのは、当然無理がある。そこで各職場の技師長クラスの方から部下へ活動の意義を説いてもらいたい。技師長クラスで本会の会員であれば、過去に本会の事業に協力した経験があり、職能団体の事業を理解していると思う。

「技師長クラスの会員に頼まず、役員だけでやれよ」とお叱りを受けそうだが、そんなことは言ってもらえない状況なのだと感じている。まずは5年後組織率70%と厳し目の数字を目指し活動していきたい。状況把握を怠らず低下傾向が見られたら早めに対策を講じていく。抜本的な取り組みを考えても良いと思う。

先日の理事会で、今年の新入会員が80名を超えたと総務担当者から報告があった。この数字は昨年度と同様でまずまずの新入会者数である。あとは退会者を減らす対策だ。